

第2回ぎふグリーン・ツーリズムネットワーク東白川大会開催要領

1 目的

県では、豊かな自然環境や伝統文化とその恵みに育まれた農林漁業などの地域資源を生かし、都市と農村の交流を積極的に推進しています。

近年その取組のすそ野が広がり、県内各地で个性的かつ魅力的な取組が実践されるようになりました。そこで、グリーン・ツーリズムに関わる者が一堂に会し、農林漁業や農山村が持つ様々な魅力と今後の可能性について議論するとともに、相互交流と情報交換を通じ“ぎふグリーン・ツーリズム”の底上げと情報発信を行うことを目的とし、本大会を開催します。

2 テーマ

緑豊かな清流の国ぎふ 山村でのグリーン・ツーリズムをいかにデザインするか
～山村に人が訪れるための光を探る！～

3 期日

平成24年11月26日（月）～27日（火） 2日間

4 場所

フィールド散策 母樹林公園（加茂郡東白川村神土）
分科会 はなのき別館（加茂郡東白川村神土606）
全体会 はなのき会館（加茂郡東白川村神土606）

5 主催

岐阜県、岐阜県グリーン・ツーリズム推進連絡会議

6 後援（申請中）

東海農政局、東白川村、財団法人都市農山漁村交流活性化機構、
特定非営利活動法人日本グリーンツーリズム・ネットワークセンター、
サントリーホールディングス株式会社、一般社団法人more trees、
特定非営利活動法人「日本で最も美しい村」連合

7 協力

東白川村森林組合・東白川村長期宿泊体験協議会

8 内容

緑豊かな清流の国である、ぎふグリーン・ツーリズムの原点は、山村へ訪れることではないだろうか？ 山や川で過ごす時間をいかに魅力的に伝えるか？

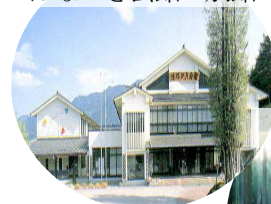
「日本で最も美しい村」東白川村の森林、山村文化についてサントリーが感じる魅力、more trees が感じる魅力を探りながら都市住民に魅力を伝え、山村に訪れる方策を考える。

【プログラム日程】

(1) 1日目

時間	内容
13:00～13:30	受付（はなのき会館1Fロビー）
14:00～16:00	フィールド散策 母樹林公園散策（more trees 看板前での記念撮影）
16:30～18:00	分科会『山村の魅力を様々な角度から掘り下げる』 ①第1分科会 「なぜ？企業が山村を訪れるのか～サントリーによる森林保全から交流への取り組み～」 コメンテーター：三枝 直樹 氏（サントリーホールディングス株式会社エコ戦略本部エコ戦略部水源涵養グループ 課長代理） コーディネーター：三島 真 氏（郡上・田舎の学校 校長）

はなのき会館・別館



母樹林公園



more trees の森

	<p>②第2分科会 「なぜ？よそ者が山村に訪れるのか～moretrees による都市と村をつなぐ取り組み～」 コメンテーター：水谷 伸吉 氏（一般社団法人more trees 事務局長） コーディネーター：鈴木 仁孝 氏（一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長）</p> <p>③第3分科会 「なぜ？東白川村は「日本で最も美しい村」となったのか～小さくても輝く山村の取り組み～」 コメンテーター：杉 一浩 氏（NPO法人「日本で最も美しい村」連合 理事・資格委員会副委員長） コーディネーター：加藤 春喜 氏（トヨタ白川郷自然学校 マネージャー）</p>
18:00～	交流会（はなのき別館）

※宿泊場所は当日現地にて案内されます。

(2) 2日目

時間	内容
9:00～	受付（はなのき会館1Fロビー）
9:30	開会
9:30～9:40	あいさつ
9:40～10:00	分科会報告 報告者：各分科会コーディネーター
10:00～11:00	基調講演『美しい国ニッポン 「和」の豊かな自然と人を世界へ発信！』 講師：ジョン・ギヤスライト 氏（中部大学 教授・ツリークライミングジャパン 代表）
11:00～11:10	休憩
11:10～12:30	パネルディスカッション『山村に人が訪れるための光を探る』 コメンテーター：ジョン・ギヤスライト 氏（中部大学 教授・ツリークライミングジャパン 代表） パネリスト：三枝 直樹 氏（サントリーホールディングス株式会社エコ戦略本部エコ戦略部水源涵養グループ 課長代理） 水谷 伸吉 氏（一般社団法人more trees 事務局長） 杉 一浩 氏（NPO法人「日本で最も美しい村」連合 理事・資格委員会副委員長） コーディネーター：三島 真 氏（郡上・田舎の学校 校長）
12:30	閉会

9 参集者

グリーン・ツーリズム実践者、旅行事業者、都市と農村の交流に興味のある人、
団体・行政担当者 など

10 定員

先着 100 名（ただし、定員を超えた場合でも 2 日目の全体会のみ参加は可能です。）

11 参加費

無料（ただし、交流会参加（5,000 円）及び宿泊（1 泊朝食 5,000 円）を希望される方は、別途現地でお支払いいただきます。）

12 申込方法

所定の参加申込用紙にご記入の上、岐阜県農政部農村振興課農村企画係へ F A X 又はメールで申込みください。

◆ 問い合わせ・お申し込み先

岐阜県農政部農村振興課農村企画係

〒500-8570 岐阜市藪田南 2-1-1

TEL. 058-272-8460 FAX. 058-278-2698 E-mail. c11427@pref.gifu.lg.jp

WEB. <http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/toshinson-koryu/greentourism/>

第1分科会

なぜ？企業が山村を訪れるのか

～サントリーによる森林保全から交流への取り組み～

【内容】

- ・サントリーが行う森林保全活動である「サントリー天然水の森 ぎふ東白川」を活動事例として紹介しながら、企業が山村に感じる魅力を探る。
- ・また、企業と協働することで、過疎化が進む地域において、大切な資源をいかに守り、また、活用していくのか、グリーン・ツーリズムの新たな切り口として、企業と山村の交流の可能性について考える。

【参考】

○サントリーの活動とは

- ・「水と生きる SUNTORY」をコーポレートメッセージとして掲げ、水と水を育む自然環境との共生を目指した活動を展開している。
- ・「天然水の森」は、地域や学識経験者と連携しながら、水源涵養林として高い機能を持つ森へと育てるとともに、生物多様性を保全し、人々が自然と接することのできる森づくりを行う活動。
- ・主に工場の水源涵養エリアで活動を展開し、その面積は7,000haを超えている。
- ・東白川村での取り組みは全国で、14カ所目の活動としてスタートした。

○サントリー天然水の森ぎふ東白川とは

- ・サントリー木曾川工場の水源涵養エリアである東白川村で「天然水の森」事業が始動している。
- ・主な取り組み
 - ①針葉樹人工林の間伐
 - ②水源涵養機能向上に向けた実証試験
 - ③間伐材の活用
 - ④広葉樹林の整備
 - ⑤植生保護柵の設置

第2分科会

なぜ？よそ者が山村に訪れるのか

～moretrees による都市と村をつなぐ取り組み～

【内容】

- ・山村の地元民にとっては“当たり前”過ぎて気づかない地域資源、伝統など、よそ者から見たらそれは魅力。
- ・そんな魅力を more trees が展開する「more trees の森」を活用した「都市と森とをつなぐ交流モデル」を事例として紹介しながら、よそ者が感じる魅力とは何かを探り、また、その魅力を磨き都市と如何に繋がっていくか考える。

【参考】

○一般社団法人 more trees とは

- ・「もっと木を」をコンセプトに、音楽家 坂本龍一氏の呼びかけにより、平成 19 年 7 月に設立された森林保全団体。
- ・日本国内での間伐（森林整備）、海外での植林を進めながら、CO2 の削減（カーボンオフセット）や国産材の利用拡大、生物多様性や保水力の問題に取り組んでいる。
- ・これまで国内では北海道から九州までの 9 カ所、海外ではフィリピンで 1 カ所の計 10 カ所で森林プロジェクトが実施され、東白川村／加子母のプロジェクトは 11 カ所目として平成 24 年 3 月からスタートした。
- ・more trees のテーマは「都市と森をつなぐ」。

○more trees の森 東白川村／加子母プロジェクトとは

- ・「都市と森をつなぐ」をコンセプトに東白川村／加子母と都市を様々な切り口から繋ぐ取り組みが始動している。
- ・主な取り組み
 - ①more trees organic（コスメグッズの開発）
 - ②more trees paper（紙としての利用）
 - ③ウェルネスツーリズム（グリーン・ツーリズム）の展開
 - ④東濃ヒノキのパリへの輸出
 - ⑤カーボンオフセット

第3分科会

なぜ？東白川村は「日本で最も美しい村」となったのか

～小さくても輝く山村の取り組み～

【内容】

- ・平成23年10月8日「日本で最も美しい村」連合に正式加盟の承認を受けた東白川村。
- ・小さな村にある光り輝く地域資源を活用した東白川村の取り組みを紹介しながら、実際に村に訪れた参加者の方々とともに、新たな魅力やその活用を考える。

【参考】

○「日本で最も美しい村」連合とは

- ・素晴らしい地域資源を持ちながら過疎にある美しい町や村が、「日本で最も美しい村」を宣言することで自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと、住民によるまちづくり活動を展開することで地域の活性化を図り、地域の自立を推進することを目的に平成15年に設立された団体。
- ・生活の営みにより作られてきた景観や環境を守り、これらを活用することで観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展を推進している。
- ・現在は39町村5地域が加盟（岐阜県では、白川村、下呂市馬瀬、東白川村が加盟）
- ・加盟するための条件
 - ①人口が概ね1万人以下であること
 - ②地域資源が2つ以上あること
 - ③連合が評価する地域資源を活かす活動があること

○「日本で最も美しい村」東白川村の取り組みとは

- ・東白川村が誇る2大ブランドを未来へ残す活動を実施
- ・2大ブランドは以下のとおり。

①白川茶文化

- ・清らかな水と澄んだ空気が育んだ白川茶は、昼夜の寒暖差の激しい急な山あいには拓かれた茶園で生育にとって限界といっても過言ではない極限の地で村民が大切に守り育ててきたお茶。
- ・白川茶は廃仏毀釈によって、廃寺となった蟠龍寺の住職が、約400年前宇治から茶の実を持ち帰り里人に栽培を奨めたのが始まり。
- ・山里の茶摘み風景は、村の春の風物詩である。

②東濃ひのきの里

- ・「東濃ひのき」は、強靱なねばり、さわやかなピンクがかかった肌色、さわやかな芳香が特徴の高級建築材ブランド。
- ・下刈り、枝打ち、間伐など手塩にかけた適期作業と、厳しい気象条件の中で年輪を刻んだ村一番の特産品。
- ・近年の村の林業は森林組合を中心に村を挙げてFSC認証制度の認定を受け、環境に優しい森林造りに取り組んでいる。
- ・また、木造住宅離れの打開するため、国産材を使った質の高い木造注文住宅の建築・施工をサポートするしくみとして、村運営による「フォレストスタイル事業」をスタート。